

1 研究主題

「学び合い、深く考え、表現できる児童の育成」

～主体的・対話的に学び合える授業を目指して～

2 主題設定の理由

本校の児童は明るく素直で、友だちと仲良く関わり協力しながら落ち着いて日々の学校生活を送ることができている。また、学習においては、与えられた課題に対してとても真面目に取り組むことができる。しかし、自分の考えを表現することはできるようになってきたものの、まだ自信がなく、自分で考えて行動することについては弱さが見られる。学習面、生活面共に自主性・積極性という点での課題がある。

本校ではここ数年算数科の授業改善を中心に、これまでの取組を継続しながら児童が主体的に学習を深めることができるようになるよう研究を深めてきた。特に「問い合わせ持たせる課題設定や発問の工夫」「思考が深まるとも学びの充実（対話の中での論理的な伝え合い）」「次の学習に繋がる数学的活動の充実」を授業改善の共通課題として取り組んだ。

全員が、授業改善プランに明記した重点取組内容を常に意識して日々の授業に取り組み、授業研究においても、授業改善プランとリンクさせながら視点を明確にした事前研究や研究協議を行った。授業研で協議したことを中心に次の取組の具体を確認し、それを日々の授業で意識して取り組んだことで授業改善に繋げることができた。

授業において自分の考えを文章や言葉で表現させ、それを伝え合う活動を増やすことで、自分の言葉で伝えることができる児童が増えてきた。しかし、課題解決の過程を、根拠を基に数学的な表現を使い分かりやすく伝えることや対話の中で自分の意見と比べながら聞き、考えを深めたり広げたりすることについては弱さが見られる。また、基礎的な問題はできているが、文章を読み解く問題では、問い合わせの意味が読み取れず、適格な答えを導き出せないことや既習事項を活用すること等にも課題が見られた。

高知県学力学習定着状況調査では、4年生が2教科県平均+16.7P、5年生が3教科県平均+10.3Pという結果であった。CRT学力調査では、全国平均+5Pで、前年度よりも高い結果であった。学力テストの結果分析を基に児童の実態把握をし、個の課題へのアプローチを行い、個の目標に近づけるよう基礎学力をつける取組を進めてきたことにより評定1の児童の数も減ってはきているものの、個人の定着度にはまだ大きな差があるため、個の目標に近づけるよう基礎学力をしっかりとつけていくことも引き続きの課題となっている。

そこで、研究主題を「学び合い、深く考え、表現できる児童の育成」～主体的・対話的に学び合える授業を目指して～とし、算数科の授業改善を中心に研究を深めていく。授業では、問い合わせが生まれる課題設定や発問の工夫を行い、対話の中で互いの意見を比べたり、深めたりしながらよりよい解決法を見出していく力をつけていく。そのために友達の発表をしっかりと聞き、友達の考えに繋げたり補足したりして説明することや友達の発表を繰り返す、言い換える、話型に沿って話す等の指導の徹底（言語活動を工夫）により、どの子も発表できる力をつけ、考えを練り合い、深めていけるよう対話活動を充実させていく。また、児童がリーダーを中心として主体的に学ぶ力につけることができるよう研究を深め、さらなる授業改善に繋げていきたい。